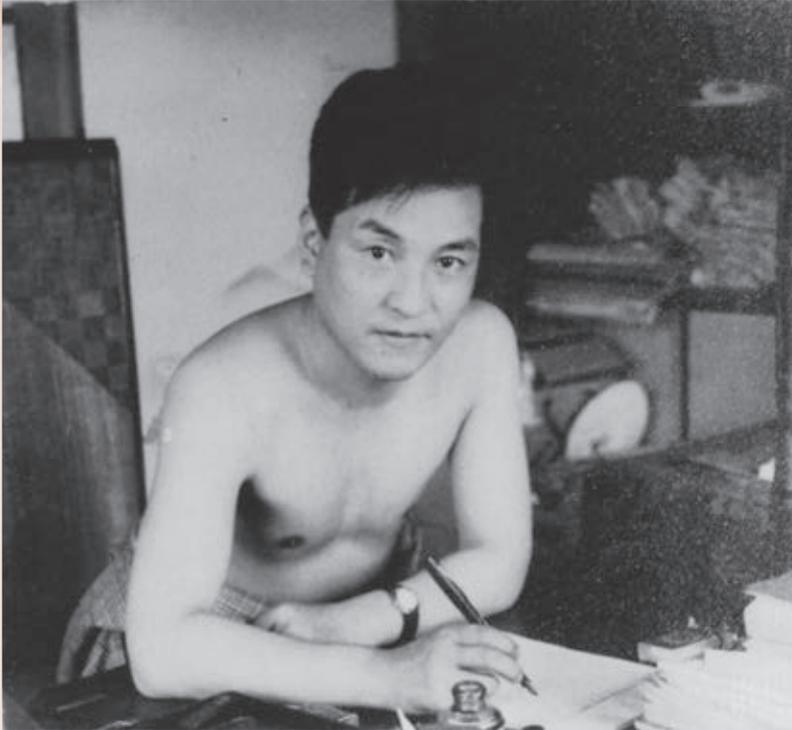


尾崎士郎没50周年記念企画展

尾崎士郎記念館名品展



もろ肌脱いで執筆する尾崎士郎 昭和10年ごろ
酒を飲みながら原稿用紙に向かうのが常で、『人生劇場』連載中の30代のころは、体がほてってくると上半身裸になって執筆をすすめたという。

はじめに

士郎は明治31年幡豆郡横須賀町（西尾市吉良町）の裕福な商家「辰巳屋」の三男として生まれ、愛知県立第二中学校（岡崎高校）を経て、早稲田大学に進学しました。社会主義運動に身を投じた後、文学を志し、35歳で執筆した『人生劇場』のヒットにより人気作家となりました。昭和13年に中国、16年にフィリピンに陸軍報道班員として従軍しています。

昭和22年に約30年ぶりに吉良への帰郷を果たし、これを機に地元名士や同級生らが士郎の後援会「瓢山会」^{ひょうざんかい}を結成し、以後度々吉良を訪れ旧交を温めました。そして、昭和39年2月19日、大腸がんのため惜しまれながら66年の生涯を閉じました。

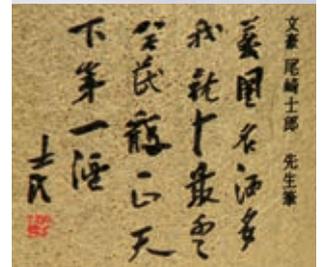
平成26年2月に没50周年を迎えるにあたり、今回の企画展では当館の所蔵資料の中から、士郎が生涯にわたって愛好した酒と相撲に関わる品を中心に、担当学芸員の目にとまった資料を取り上げました。展示をとおして、多くの人を惹きつけた士郎の人間的な魅力の一端を感じていただければ幸いです。

士郎と酒

士郎は大の酒好きとして知られ、下積みの文士や、若い編集者が自宅を訪れても、気さくに部屋におし酒を勧めた。酔いがまわっても謙虚でひかえめで、相手の地位や名声にこだわらず、作家仲間や出版関係者のほか、実業家、画家、力士、政治家、また故郷吉良の同級生たちなど、幅広い分野の人々と酒を酌み交わした。宴会では、酔い心地になると、得意の浪曲を披露し、裸になってひいきの力士の土俵入りを実演することもしばしばであったという。

執筆にも酒は欠かせなかったようで、本人いわく「飲むにつれて次第に理論が整然として」筆が進んだという。

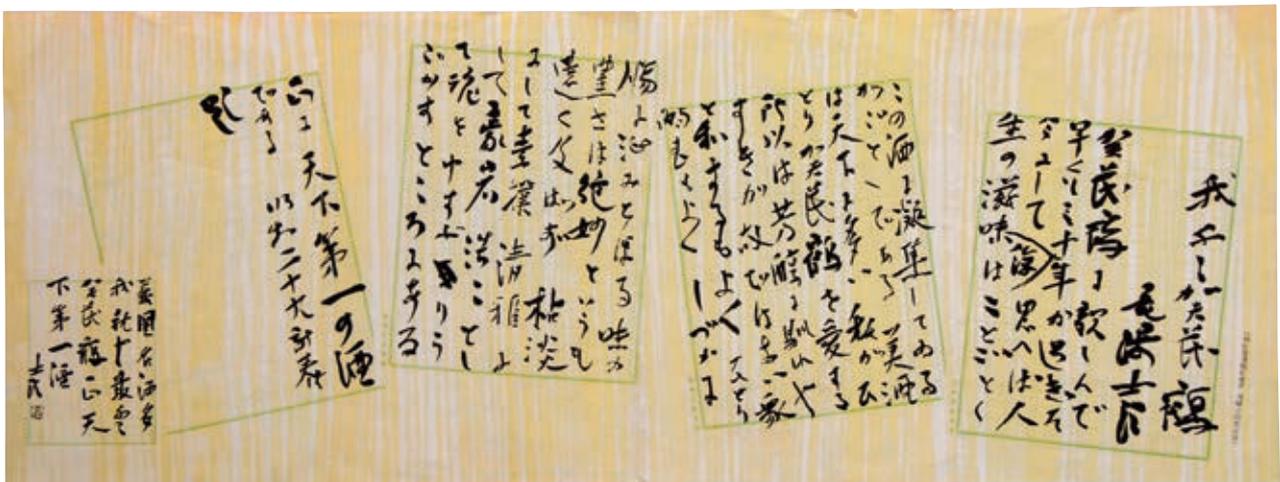
士郎は広島酒どころ西条（東広島市）の「賀茂鶴」を好んで飲んだ。賀茂鶴酒造は明治時代から日本酒の海外輸出を手がけ、昭和33年には、初めて大吟醸酒を発売した老舗の酒蔵で、社長の石井武志氏は早稲田の同窓で士郎と親しい間柄であった。



「賀茂鶴 特別大吟醸 双鶴」ラベルに士郎の書が印刷されている。「芸国（安芸国）名酒多し。我なかんずく賀茂鶴を最愛す。正に天下第一の酒なり。士郎」



我賀茂鶴を愛す 尾崎士郎
 賀茂鶴に親しんで早くも三十余年が過ぎた。今にして思へば人生の滋味はことごとくこの酒に凝集してあるがごとくである。美酒は天下に多い。私がひとり賀茂鶴を愛する所以は芳醇に馴れやすきが故ではない。衆と和するもよく、ひとり酌むもよく、しづかに腸に沁みとほる味の豊さは絶妙というも遠く及ばず、枯淡にして素朴、清雅にして豪宕、浩浩として魂をゆすぶらう。正に天下第一の酒である。昭和二十九新春題



清酒「賀茂鶴」リーフレット

昭和29年春 士郎筆

士郎と相撲

士郎の相撲好きは子どものころからで、大正末期からは国技館に足繁く通っていた。自らも「大森相撲協会」や、伊東在住時代には「篝火相撲協会」を立ち上げ、仲間たちと取り組みを楽しんだ。

相撲に関する著作は、昭和初期から「都新聞」などに相撲観戦記事を執筆し、小説『雷電』、『相撲随筆』『相撲を見る眼』などの随筆のほか、戦後は雑誌『大相撲』『相撲』に連載をかかえていた。

昭和25年に横綱審議委員会が発足すると、初代委員に作家の舟橋聖一とともに任命され、昭和39年に亡くなるまで委員を務めた。

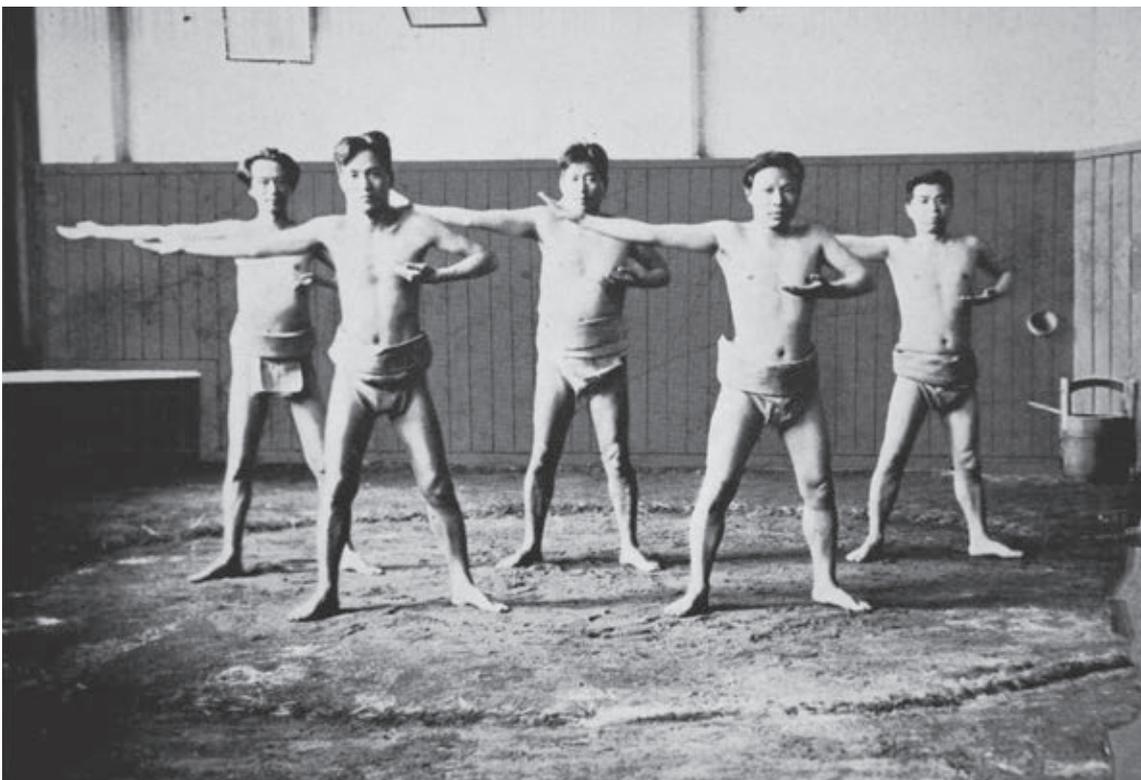


横綱審議会設置10周年記念額 昭和35年5月23日



横綱審議委員会委員として取り組みを見守る士郎
昭和37年(『書簡筆滴』より)

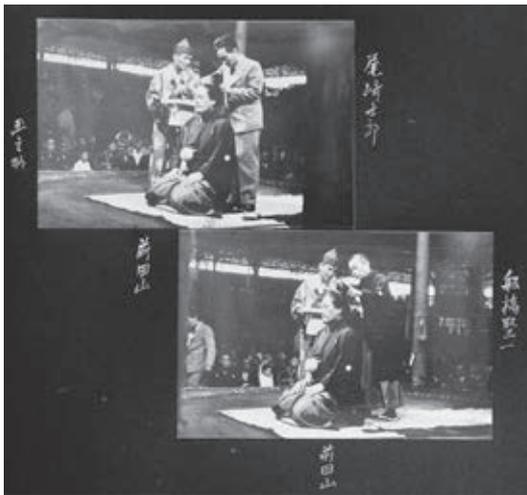
右は同じく委員の石井鶴三(画家)。石井は士郎著『高杉晋作』『小説国技館』などの雑誌連載で挿絵を描いた。



「大森相撲協会」の力士による土俵入り

昭和7年(『書簡筆滴』より)

「馬込文士村」に集った若い作家仲間らにより結成。左より今井達夫(若鮎)、尾崎士郎(夕風)、中村武羅夫(北の海)、山本周五郎(馬錦)、鈴木彦次郎(飛龍山)。※()は四股名



横綱前田山引退披露大相撲(断髪式)アルバム

昭和25年 5月30日開催

第39代横綱の前田山(高砂親方)は、大の野球好きで、高見山の師匠としても知られる。

写真は断髪式。士郎(上)、舟橋聖一(下)



『小説国技館』箱

絵 石井鶴三

昭和35年 雪花社



『昭和時代の相撲』箱

昭和16年 国民体力協会

士郎20歳の時、父嘉三郎から郵便局長を引き継いだ長兄の重郎が公金を使い込んだ末に自殺。生家は破産し屋敷も処分されたため、約30年間故郷を訪ねることができなかった。昭和22年、知人の仲介によって帰郷を果たし、村民より大歓迎を受ける。横須賀村の有力者や同級生らによって士郎の宿舍として瓢山荘が整備され、雑誌も発刊された。

本日大相撲

横綱東富士一行

組長 元前山 高砂浦五郎
勸進元 瓢山会

士俵入や其句に樂しむもよし、四十八手の解説もきけ。小、中学生の選手より東富士によつて見よ。所望があつたらしよつきり五本抜も面白い。ご婦人衆も是非出掛けられよ。四十七貫の東富士の土俵入、三州横須賀の秋空の下じつと見つがる士郎先生と前田山、小学校々庭からホームランの快音。

慰霊大相撲と野球

● 全村慰安の一日

とき 九月五日(雨天順延)

ところ 相撲 中学校々庭 (自早朝 至夕刻)

野球 中部小学校々庭 (自九時 至十一時)

高砂チーム 対 桃太郎チーム

大地震させい者・戦病死勇士

初秋の夕、待望の聲を聞く

相撲講演會……を聞く

ところ 中学校 講堂

とき 相撲打上後六時より

講演者

尾崎士郎先生

元前山

組長 高砂浦五郎氏

夏場所優勝力士 横綱 東富士謹一氏

元銃の里 検査役 西岩一雄氏

相撲研究者伊藤在任 瓢山会々員 三木 澄氏

其の他(出演者未定)

尾崎士郎先生を名篇石田三成によつて識り、再讀毎に尊敬の念ひを彌めてゐた元横綱前田山關が、心にえがきながらも先生とまみえる機會の出来なかつた折柄、五月場所前の劇的對面の日からその親交の火華が記念すべき引退断髪を先生の手により取り行はれ、今や恩女の郷土三州横須賀村へといみじくも美しく聞く三尺玉となつて現われた。……

英靈を祭り、ぎせい者を慰め、全村一日の慰安を催す。

昭和二十五年八月二十五日

瓢山會

瓢山会主催「慰霊大相撲と野球」チラシ(複写)

昭和25年 9月5日開催

士郎の仲介により実現した士郎後援会「瓢山会」主催の高砂部屋力士による大相撲。相撲は横須賀中学校(現横須賀公園)校庭で、高砂部屋力士と地元チームとの野球大会が横須賀小学校で行われた。夜には士郎の講演会も開催された。

映画「人生劇場 望郷篇 三州吉良港」

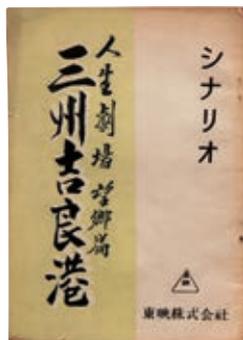
『人生劇場 望郷篇』は、青春・愛欲・残侠・風雲・離愁・夢幻に続く『人生劇場』の7作目として、『オール読物』に昭和26年12月から翌3月まで連載され、昭和27年に文芸春秋新社より単行本が発刊された。

物語は、主人公青成瓢吉あおなりひょうきちの故郷三州吉良港で起こった任侠にんきょうと新興の暴力団との抗争を中心に展開する。士郎の創作による部分が大半とみられるが、昔気質の任侠足助一家の足助親分のモデルは、拳母（豊田市）で瀬戸一家を率いて、当時劇場経営を行っていた川島五郎とされ、士郎は拳母を取材のために訪問したとのことである（『新三河タイムズ』2012年11月1日特集記事）。実家の没落の後、30年ぶりに昭和22年に故郷吉良への帰郷を果たし、以後しばしば吉良を訪れるようになったことが「望郷篇」執筆の契機になった。

『人生劇場』の映画は、計14作品が制作されているが、本作が吉良でロケが行われた唯一の作品で、町民の多くがエキストラとして出演した。

映画「人生劇場 望郷篇 三州吉良港」
東映 昭和29年9月封切

原作 尾崎士郎 青成瓢吉：宇野重吉
監督 萩原遼 宮川健：佐野周二
脚本 岡本功司 足助治三郎：宇佐美淳
おとよ：久慈あさみ



映画『人生劇場 望郷篇 三州吉良港』シナリオ



映画『人生劇場 望郷篇 三州吉良港』士郎撮影現場来訪
名鉄西尾線上横須賀駅前で瓢吉役の宇野重吉と握手する士郎。



映画『人生劇場 望郷篇 三州吉良港』
名鉄西尾線上横須賀駅にてロケ
撮影のため「三州吉良港」駅の看板が掲げられた。久慈あさみと佐野周二。



映画『人生劇場 望郷篇 三州吉良港』宮崎海岸にてロケ

待望久しい話題の豪華大作 横映劇場11月前半の御案内

人生劇場 望郷篇 三州吉良港

絶対の面白さ！ 爽快感の話題を誇る

主演 里見八犬傳

原村の竹様を襲撃になりました防犯に協力致しましょう！

2*	3*	4*	9*	12*	14*	15*
鶴亀先	母時	黒いけし	黄金街のは	鳴門秘帖	美男天狗	春気な探偵
生山	白うの暇	疾風八百八	にこり	見八犬傳	地獄谷の対決	物語

7日 8日

御注文品必お取寄靴の店電屋製靴店

金仙堂

ミシンの御用は 龍野ミシン商会

フジヤ化粧品店

クロノ薬局

映画『人生劇場 望郷篇 三州吉良港』チラシ（横映劇場）
上横須賀所在した。本明座より改名。

待望！ 堂々豪華二本立封切！ 一色朝日座

おらが村が町が絶対見逃さない!!!

人生劇場 望郷篇 三州吉良港

東映・新秋に贈る文芸大作

★ 超特別興行 ★

3日 4日 5日 6日 正午より 映

電話三七五

映画『人生劇場 望郷篇 三州吉良港』チラシ（一色朝日座）

おらが村が...私の街が... 映画に出てくる 郷土ロケーションの問題篇！

人生劇場 三州吉良港

★ドラマの真髄を茲に究めて感動の涙を誘う雄渾の人間詩！
文豪尾崎士郎の情熱を擲いて 流麗萩原が放つ完璧の傑作!!

★特別興行★

西劇

3日 4日

映画『人生劇場 望郷篇 三州吉良港』チラシ（西尾劇場）
西尾劇場は名鉄西尾駅前に当時の建物のまま現存。



文芸懇話会賞推讃状

士郎の『人生劇場』が川端康成の『雪国』とともに第3回文芸懇話会賞を受賞した。



『人生劇場 青春篇』表紙

昭和10年 竹村書房



『人生劇場 愛欲篇』表紙

昭和10年 竹村書房

士郎の代表作『人生劇場 (青春篇)』は、昭和8年に洋画家の中川一政の挿絵とともに「都新聞」に165回にわたって連載された。その後、『続人生劇場 愛欲篇』(168回)、『続々人生劇場 残侠篇』(228回)と連載が続けられた。昭和10年に単行本が竹村書房から発刊され、川端康成の「読売新聞」に掲載された書評によって一躍人気小説となった。その後、舞台や映画で取り上げられ、戦後はラジオ、テレビドラマでも繰り返し放映された。書籍も各出版社から文庫を含め複数の版が出版され、まさに国民的長編作品として親しまれている。



柄の銘文部分拡大

日本刀 銘「濃州赤坂住兼元」

柄裏面に銘「永正九(1512)年二月日」。「兼元」は関(岐阜県)鍛冶で有名な「関孫六」の初代で、その出自は赤坂(大垣市)といわれる。初代兼元の晩年の作とみられ、片手で使用する実戦用の刀である。

長男儀士さん誕生を記念して、ある印刷会社社長から贈られたもので、刀剣愛好家の知人宛手紙に「五月の節句俣誕生の日に之を飾り一盞傾けたく存候」(『書簡筆滴』)とこの刀のことが触れられている。

長さ62.6cm 反り1.2cm 鎬造 庵棟 地:板目 刃:互の目 拵え:薩摩拵え(江戸時代)

尾崎士郎記念館

入館料 大人300円 中学生以下無料

団体(20名以上)250円

※隣接する旧糟谷邸(江戸時代の豪農屋敷)と共通券

休館日 月曜日(ただし祝日の場合は開館し、火・水曜日休み)

祝日の翌平日、年末年始(12月29日から1月3日)

開館時間 午前9時～午後5時

愛知県西尾市吉良町荻原大道通18

電話(0563)32-4646 FAX(0563)32-3700

シロ-シロ-

尾崎士郎没50周年記念企画展

尾崎士郎記念館名品展 展示解説

平成25年9月26日 発行

発行 尾崎士郎記念館

(西尾市教育委員会文化振興課)

印刷 共和印刷株式会社